

第38回 土岐市地域公共交通活性化協議会 議事録

日時：令和3年11月4日（木）10：00～

場所：土岐市役所・3階大会議室

（参加者）

※敬称略

委員	磯部 友彦	澤田 眞司	林 直樹
	野田 昭宏（代理）	勝 雅義（代理）	小倉 保二
	瀬瀬 健二	後藤 正樹	太田 淑美
	中島 美子	三輪 やよい	日比野 たつ江（欠席）
	長谷部 満	市岡 ちあき	富田 康義（代理）
	吉田 佳史（代理）	北澤 しず香	若園 大悟（代理）
	市川 達也	加藤 辰亥	高井 由美子
	鷺見 直人	水野 健治	黒田 隆之
	加納 浩康	松原 裕一	
事務局	籠橋 昭範	水野 弘二	佐橋 直樹

■会長あいさつ

- ・ 会長あいさつ

（事務局）

- ・ 本協議は26名中25名の出席があり、規約に基づいて成立したものとする。
- ・ 議長は、磯部委員にお願いしたいがよろしいか。
～異議なしの声～

■協議事項

（1） 土岐市地域公共交通計画について説明

（事務局）

- ・ 資料1 土岐市地域公共交通計画（骨子案）について説明
- ・ 資料2 公共交通アンケートの結果について説明
- ・ 資料3 土岐プレミアム・アウトレット線試験運行の実施状況について説明

（市議会議員）

- ・ 市内では計画期間内の令和4年度から令和8年度までに新たな道路が建設開通される予定であるが、その対応はどうか。

（事務局）

- ・ 新病院へアクセスするための道路があると考えますが、新病院の詳細が決まっていなため、どこまで計画に入れ込むことができるか不明だが、今後の状況を見ながら関係団体と調整して進めたい。
- ・ 西山の県道への対応では、現在コミュニティバスが運行されておらず、住宅街も遠

いため、今のところ路線網の整備の予定はない。

- ・ 妻木の区画整理の地域では、東濃鉄道の妻木線、市民バスの土岐南北線、曾木＝妻木線が近隣を運行している。道路の開通に合わせて、当初より経路を変更する予定はないが、近隣住民からの要望があれば可能な限り路線の一部変更等を検討したい。

(議長)

- ・ 施設の立地、道路の建設等の大きな変化があるため、需要の変化に合わせた検討をしていくということである。

(岐阜県バス協会)

- ・ 新型コロナウイルス以前では、乗合バスは7割が赤字であったが、観光事業などや国や県の補助で維持してきた。しかし新型コロナウイルスにより乗合バスは3割減、高速バスは8割減、観光事業の貸切バスは7割減となった。そのため、今まで総合的に黒字で運行できたバス会社も、他の事業が厳しくなったために、路線バスの運行をすることが厳しくなってきた。全国的にも乗合バス事業者が廃業・減便等が多く見られる。

今後、路線バスはコロナ前の100%に戻ることはないの見込んでいる。そのため、路線バスを維持するのはとても難しい状況になる。民間事業なので、事業縮小は当然検討される。自治体の支援がなければ維持していくことが困難である。そのあたりを考慮してもらいながら検討してもらいたい。

(議長)

- ・ 今後5年間の計画であるため、そもそもどれくらいの人が移動するのか、どの程度需要があるか検討しつつ、それに対応するためにどの乗物が支えるのか検討する必要がある。

(事務局)

- ・ 東濃鉄道からも詳しい乗降者数や収益状況などの数字の提供を受けており、非常に厳しい状況下にあることは認識している。路線バスを維持していくために税投入はやむを得ないという考えの市民も多い中で、本当に必要な路線なのかを見極めながら、バス以外の体系も視野にいれつつ、需要に対して形に囚われることのない交通網を考えていきたい。

(議長)

- ・ 非常に難しい問題である。みなさんの5年後の生活が想定できないため、どのようになるのか見当がつかない。しかし、将来本当に移動が必要なのか、移動しなくてもいいものなら移動しないなど選択肢が出てくるだろう。みなさんのアイデアをもらいながらフレキシブルに考えたい。
- ・ 大きな話として、新病院、イオンモール土岐、東濃鉄道営業所の跡地利用の3点がある。新病院は東濃厚生病院と統合されるため、土岐市だけでなく瑞浪市も使いやすい形を目指す必要がある。瑞浪市との関係はどうか。

(会長)

- ・ 今年の6月に新病院の運営母体として、一部事務組合を設立した。土岐市庁舎内に瑞浪市職員に出向いただき、基本構想・基本計画の構築に着手しているため、十分に瑞浪市と連携が取れている。
- ・ 新病院へのアクセス道路として、前から計画されている「陶元浅野線」を、新病院の建設に並行して進める予定である。
- ・ また、土岐市立総合病院は恵那市恵南地域からの利用もあるため、恵那市とも調整を進めている。

(議長)

- ・ 最近のまちづくりは総合病院が中心になることもある。期待している。

(議長)

- ・ 今まで市内の路線バスの取り決めは、事後報告的に進められてきた。国や県の立場からどうお考えか。

(岐阜県)

- ・ 県内の広域的な路線は県の協議会で調整することとしている。
- ・ バス路線の廃止に関しては6カ月前までに届け出る取り決めであるが、土岐市のように事前に対応するような形でできるのが望ましい。路線を維持するためにも早めに動き始めることは重要である。県でも地域公共交通計画の策定を進めており、地域案幹線系統に係る部分では、このような取り決めに盛り込んでいきたい。

(岐阜運輸支局)

- ・ バス路線の廃止は、道路運送法で6カ月前に国に届け出とある。過去に、(自治体に知らせずに)バス事業者が路線の廃止の申請を国に出したことで、自治体が混乱するケースがあった。土岐市のように事業者と連携し、1年前から調整してもらおうと、今後の交通を考える上でよい取り組みである。

(東濃鉄道)

- ・ これまでは、乗務員状況を中心に考えた結果、あわただしく減便等行ってきた。そのため準備期間もなく、各市町からは検討する時間がなかったのか言われることがあった。そのため、1年後や1.5年後を見越した路線提案を各市町にしたい。
- ・ 今年、中津川市で2路線廃止した。国の届け出で、半年前での申し出をしたが、中津川市から準備期間が足りない要望があり、1年後の廃止ということで受け入れてもらった。
- ・ 観光事業が厳しく、令和2年度で大幅な赤字を出した。今年度も非常に厳しい。一般の企業では2年赤字が続くと赤字倒産の可能性もある。東濃鉄道が存続するためには、今回の土岐市の提案以上に厳しい提案をせざるを得ないことが考えられ、その節は各市町に連絡して進めたい。
- ・ 新たにイオンができるため、路線バスの乗客が増えると期待している。一方で限ら

れた乗務員の中で一般路線を維持することも難しく、新たな黒字路線を作るのも乗務員数的に厳しい。そのためバランスよく資本の分散を行っていききたい。まずは地元地域の路線維持に最大限努めていきたい。

(議長)

- ・ 日本の交通事業はほとんどが民間であるが、海外の方からは赤字なのになぜ維持しているのか不思議に思われる。路線バスは経営努力で維持されているため、みんな交通を維持したい。

(多治見砂防)

- ・ イオンモール土岐の開通で国道19号の渋滞はどう対応されるか。公共共通機関を使ってもらえると渋滞緩和につながると考える。他地域のイオンモールでは無料シャトルバスが運行されることがあり、本イオンモールでは無料シャトルバスなどは検討されているか。その場合に、本計画とイオンとの連携はどうしていくのか。

(事務局)

- ・ シャトルバスは、現時点ではないと聞いている。東濃鉄道、イオンモール、土岐プレミアム・アウトレット、市の4者で何度か協議をしており、土岐市駅発イオンモール終着の路線バスを東濃鉄道様に運行いただく方向で調整している。両商業施設周辺の公共交通網を充実させることで、渋滞対策の一端を担うことができると考えている。

(議長)

- ・ まずはこの骨子案の方向で進めていくということで、ご承認を頂きたい。追加の要望があれば受け付けたい。それでは今日のところは原案通り異議はないか。
～異議なしの声～

■その他

(中部運輸局岐阜運輸支局)

- ・ セミナーに関するお知らせ

(議長)

- ・ それでは会議の進行をお返しする。

(事務局)

- ・ 以上をもって本日の協議会を終了する。

以上